

長崎大学医学部小児科

後期研修ガイド

入局案内



- ① 小児科はとても魅力のある領域です。 … 2 ページ
- ② 専門とする診療科を、小児科にするかどうかを迷っている人の
Q&A … 3 ページ
- ③ 小児科は決めただけで長崎大学にするかどうかを迷っている
あなたへ … 6 ページ
- ④ 長崎大学小児科での後期臨床研修とその後 … 7 ページ
- ⑤ 後期臨床研修医日々の生活について
(特に長崎大学病院小児科勤務の期間) … 8 ページ
- ⑥ 専門診療分野、研究、国内・海外留学 … 9 ページ
- ⑦ お問い合わせ、連絡先 … 10 ページ

①小児科はとても魅力のある領域です。

いきなり勧誘のようですが、小児科は、とても魅力のある領域です。これをお読みになされている皆様のなかには、その魅力をすでに実感している方もいらっしゃるのではないのでしょうか。最近では小児医療の重要性は認識されてきており、保険診療報酬も含め、周産期・小児医療環境についても改善されてきました。まだ十分ではないですが、着実に、“こども”は大切にされる時代が到来しようとしているようです。ご存じのとおり、“こども”をいろんな面でサポートする中で、小児科医の役割は大きく、そして魅力があると、わたしたちは考えています。その魅力を十分に伝えきれていないのはわたしたちの責任かもしれません。わたしたちは、多くの人たちと仲間になって、小児科医としての喜びを一緒に共有していただけることを期待しています。

小児科は、対象とする相手が子どもということ自体、特殊な診療科といえるかもしれませんが。例えば手技ひとつをとっても大人に施行するのと子どもに施行するのではまるで違います。一般に子どもに手技を行うことは大人に対するそれより困難です。この困難性を「スペシャリティー」ととるか、「面倒くさい」ととるかであなたの”小児科医度”が決まるかもしれません。いまこれをお読みになされている方には、少なくとも「面倒くさい」という人はいないのでしょうか。小児医療は、多くの分野から成り立っているとも言えます。広い知識や経験が必要とされますが、そのなかで、専門領域を選ぶことができます。ちょっとでも興味があり、専門分野を決めていない人、総合医を目指す人は考えてみてください。迷っている人は②の Q&A を参考にしてください。

②専門とする診療科を、小児科にするかどうかを迷っている人の Q&A

ここでは、小児科を選択しようかどうかを迷っている方からよくご質問がある内容を Q&A 方式で記載しております。Answer は、その時代の政策・潮流・世論によってかわることもあるかもしれませんが、現時点でのわたしたちの正直な Answer を記載しているつもりです。

Q. 研修が大変ではないですか？

A. 「Yes」or「No」での回答が難しい質問です。

小児科は研修の範囲が広いので日々の勉強は大変かもしれません。私たち小児科医は子どもというフィールドでの Generalist であるべきで、なおかつそれぞれの分野における Specialist でもあり、この絶妙なバランスを持てることを誇りに思っています。魅力ある小児科医になるという目標があれば研修は充実したものになるでしょう。

Q. 小児科は労働条件が厳しくないですか？

A. 「Yes」or「No」での回答が難しい質問です。

小児科は処置も大変だし、急変が多いし、時間外の医療要求度が高いし、そういう意味では楽な科ではありません。しかし、命を預かる以上どの診療科もそれぞれ大変であることは事実です。実際、わたしたち小児科医が、別の診療科の先生方の労働条件をみて、”小児科医よりもたいへんそうだな”と感じることもあります。小児科だけが厳しいわけではありません。また、小児科医をしていると”癒し”という最終兵器があることに気づかされます。それはかわいい子どもたちの(特に病気が治っていくときの)笑顔です。これを見せられると私たちの疲労はどこかにとんでいくから不思議です。

長崎大学小児科ではこれら精神論的なものだけでなく診療システムそのものの改善にも取り組んでいます。長崎大学小児科は、いわゆる”地方大学”の小児科に含

まれます。つまり、現状は、他の地域と同じく、医師数が十分とはいえません。したがって重症患者さんの担当になった場合、個々の医師に大きな負担がかかってしまいます。その対策として、長崎大学小児科では、原則的に、患者さんに対して医師のグループによる診療をおこなって、お互いに休暇・休養をとって、リフレッシュできるような体制をとっており、現在、さらに診療システム改善に取り組んでいるところです。

Q. 少子化問題で子どもの数が減っているのに、小児科医の未来はあるのでしょうか？

A. 「少子化」は進んでいますが、小児科医には「未来」があります。小児科医の需要は減っていません。

「少子化」という社会現象自体はわれわれの手で直接解決できるものではありませんが、少子化になって子どもに対する医療の要求度はレベルが高まる一方です。長崎でも、出生数は減っていますが、新生児の管理を行う病床(NICU・GCU)数が足りなくなることも多く、ほぼつねに満床となっています。時間外の一次診療にあたる各地域の夜間センターは患者でいっぱいです。少なくとも長崎は、さらに多くの小児科医のマンパワーを必要としていますので、小児科医を志す先生がたくさん新たに来てくださっても、仕事がなくなって困るということにはなりません。小児科医にとって、「未来」がなくなることはないでしょう。

Q. 研究に魅力がありますか？

A. 小児領域は、研究分野においても魅力が多い領域です。

小児科は守備範囲の広い科のひとつで、感染・免疫(感染症、免疫疾患など) 遺伝(遺伝子)、発生(先天異常、新生児ほか)、生理(循環ほか)、生化(先天代謝ほか)、分子生物、腫瘍…と、ご自身の興味とやる気があればさまざまな分野に挑戦できます。医療の先端とされる移植、遺伝子治療、再生医療などももちろん小児科はたずさわっていかなくてはなりません。小児科での研究は大変魅力的であると言えます。

Q. 収入は充分ですか？

- A. 医療をビジネスライクに考えるならば、小児医療のフィールドは、他の診療科と比べれば、相対的に考えると、良いとは言えないかもしれません。ただし、日常生活に関していえば、当然ですが家族を養いつつ、十分に生活していけます。

このような書き方をすると幻滅されるかもしれませんが、もしも今後の医師としての人生設計において、経済的に裕福になることを、特に優先したい、とお考えでしたら(それは悪いことではないと思います)、小児科医という職業の選択は、最適とは言えないかもしれません。

Q. 女性として結婚・出産しても仕事が続けていけますか？

- A. 続けていけます。

小児科は子どもとそのお母さんのことをまず大切に考える科なので、女性医師が結婚・出産しても働きやすい環境をつくらうとより真剣に考えている科だと自負しています。現在、母親になられた先生方の働き方は、一律に決まった形をとっておりません。これは、結婚・出産後のライフ・ワーク・バランスについての個人およびその配偶者・ご家族の考え方は様々だからです。

(例:できるだけ育児休暇をとりたい、すぐに復帰したい、育児支障がない程度に働きたい、などなど)

※長崎大学小児科ではそういった幅広いニーズにできるだけ応えることができるように、教授・医局長が当人の希望を聞いて、復帰時期・働く場所・条件を考えていきます。個人のご希望にできるだけ沿うような労働の条件を提供するためにも、仲間はひとりでも多いほうがよく、マンパワーの充実は、わたしたち全員の課題です。

③小児科は決めただけで長崎大学にするかどうかを迷っているあなたへ

小児科医になるのは決めただけで長崎大学にするかどうか迷っている人へ、ここでは長崎大学小児科の特徴を記載します。

長崎大学医学部の特徴は、歴史が古く、県に唯一の医学部だということです。当然ながら長崎県内にある小児科はほとんどが当医局から派遣されている、あるいは関連医師が勤務しています。これは「うちはこのだけのブランチを持っている」という意味だけではなく、長崎県単位で臨床研究や診療基準の統一、研修体制がとれることを強調したいのです。

歴史と伝統がある長崎大学小児科ですが、一方で、上級医、後期研修医という立場に関わらず、希望や意見を述べることができる、自由な気風の教室です。手前みそながら、臨床の最前線においても、医局でのちょっとした休憩時間においても、いつでもだれとでも、いろんなことが相談（や雑談が）できる、そんな雰囲気を感じます。

医局員に対しては、医局は、「あなたの小児科医としての人生設計プランをサポートします」という姿勢で臨んでいます。10人の小児科医がいれば10人の違った小児科医像があります。自分は将来こんな小児科医になりたいという医師像を私たち医局はサポートし、その実現に向けて努力します。

一方で、長崎県の小児医療は私たち長崎大学小児科医局員の力にかかっていると言って過言ではありません。長崎には、たくさんの離島があります。地理的に「陸の孤島」の地域もあります。全ての子どもたちに同レベルの医療を提供するためには私たち医局員の協力が必要です。人事・派遣・留学などは、この「公」と「私」の組み合わせで決まっていきます。一方で、離島やへき地で実際に働いて得られる経験や知識、人脈などは、かけがえのない貴重なものとなるという側面もあり、一定期間はそのような経験が必要だとも言えるかもしれません。

長崎大学小児科に入局された場合は、できるだけ、ご自身のご希望やご要望を教授や医局長に正直にお伝えいただくようお願いしたいです。また、一旦入局したのちに、やむを得ず長崎大学小児科を離れなければならない場合も、1年のゆとりをもって教授にお伝えいただくようお願いしております。ご希望・ご要望が、永久に同じであるはずはありません。今後、変更することが見込まれる内容であっても、お気軽にご相談いただければと考えます。

④長崎大学小児科での後期臨床研修とその後

後期研修の説明の前に「小児科専門医」について解説します。日本小児科学会は学会の定める受験資格を有する小児科医に症例レポート提出と試験を行い、合格したものに「小児科専門医」の称号を与えます。日本で小児科医をやっていくためにはまず取得すべき称号と考えています。入局された先生方には、この小児科専門医の取得、それも最短期間での取得を頑張っていたいただきたいと考えております。もちろんそれを医局としても支援いたしますが、改めて「支援」するまでもなく、後期臨床研修を修める中で、自ずと「症例レポート」に値する症例に出会うことができますし、臨床経験を積むことができます。（※試験は頑張っていたいただかなければなりません。）

つぎに、長崎大学小児科の後期臨床研修について説明します。

皆様には「後期臨床研修」を3年間行ってもらいます。まず第1の目標はこの3年間の後期臨床研修後に「小児科専門医」を取得することです。この実現のために具体的には以下のようなスケジュールを立てています。

○ 3年目(小児科1年目)

原則として、長崎大学病院小児科で1年間研修

○ 4～5年目(小児科2～3年目)

関連病院研修(佐世保市立総合病院、長崎市立市民病院、長崎医療センター、健康保険諫早総合病院、長崎県島原病院、五島中央病院、長崎大学病院など)

○ 6年目(小児科4年目)

専門医試験受験、合格

6年目以降

各専門診療分野での活動(大学病院または関連病院) 国内留学 海外留学 各専門診療分野の学会専門医の取得、大学院

・さらに将来の道 開業医、勤務医(長崎大学病院? 関連病院?)、大学人として生きる(教授になる)

⑤後期臨床研修医日々の生活について（特に長崎大学病院小児科勤務の期間）

病棟は現在、下記の 4 つの診療グループに分かれて診療を行い、日常的に各グループが連携をとりながら診療を行っています。

あ か	主に血液・腫瘍
ピンク	新生児 新生児集中治療
あ お	主に神経、代謝、内分泌、腎臓、および遺伝
きいろ	主に心臓、炎症性疾患、アレルギー

※上記に書かれていない分野（感染、消化器など）はあお、きいろが持ち回りで主治医になります。

3～4 ヶ月周期で診療班を回り1年で4グループを回ることを基本にします。長崎大学病院の特徴は、全ての分野の診療をしているという点です。二次救急から三次救急まで他科にまたがる疾患についても協力しながら治療にあたります。

都市部の大学病院や小児専門施設では専門化が進み、自分の得意分野だけの診療になっているところがあります。しかし都市部を除く日本の地域の半分以上を占める「地方」で小児診療にあたる場合、それはむしろ不利となることもあります。当医局の方針として、小児科医は小児の Generalist である、というポリシーがあるので全分野を大学病院で診ています。この4グループには初期研修医、ポリクリ、クリクラ学生も入ってくるので、かれらの良き相談相手になりつつ、ご自身も勉強していきましょう。

⑥専門診療分野、研究、国内・海外留学

☆専門診療分野について

もうすでに進みたい診療分野がある場合、教授あるいは医局長が、その診療分野のチーフへ紹介いたします。まだ決めていなくて迷っている段階でも、早めにご希望をお伝えいただくことをお勧めいたします。

☆研究について

研究を志したい人には当然ながらその道も提供します。教授は感染、なかでもウイルス感染症が専門で、いくつかのプロジェクトが動いています。うちいくつかは熱帯医学研究所、東南アジアの大学との共同研究もあり、教授だけでなく大学院生もベトナム、タイに行ったりしています。

それぞれの学会では毎年演題を発表していますし、それぞれに魅力あるプロジェクトをもっています。長崎という地方から世界に向けて発信する意気込みを持ち、皆さんと一緒に研究していければと思います。

☆国内・海外留学について

わたしたちは長崎の子どもたちにも、他の地域に負けないレベルの医療を提供していかなければなりません。わたしたちは、大学の垣根を意識せず、各専門施設や専門医にも、積極的に意見を求めて日常診療を行っています。その意味で、長崎にいるままに、最新の知識や情報は得られるのですが、一定期間、症例が集中する都市部の大学病院や小児専門施設で研修することは、技術を習得するうえで非常に有益です。

ご希望によって、後期研修後に小児科専門医資格を得たのちには、国内留学として勉強に行き、専門的技術や経験を獲得することもできます。もちろん勉強後は長崎に帰ってきてその班のチーフとして力を発揮してもらわなければなりません。

海外留学は研究留学が主になります。海外での研究は医学博士を持っていないと不利です。大学院を卒業し「医学博士」を取ってからの挑戦となるでしょう。森内教授は医学部の教授の中で最も海外留学の年数が長い人です。たくさんの Connection がありま

す。

⑦お問い合わせ、連絡先

こどものちょっとした笑顔を見たい人を心から募集します。今からでも間に合います。こども達の幸せを一緒に守りましょう。

少しでも興味があれば気軽に E-mail で連絡して下さい。

平成 27 年 7 月

小児科長 森内 浩幸

小児科副科長 岡田 雅彦

文責・医局長・問い合わせ先 白川 利彦

syounikaikyoku@ml.nagasaki-u.ac.jp